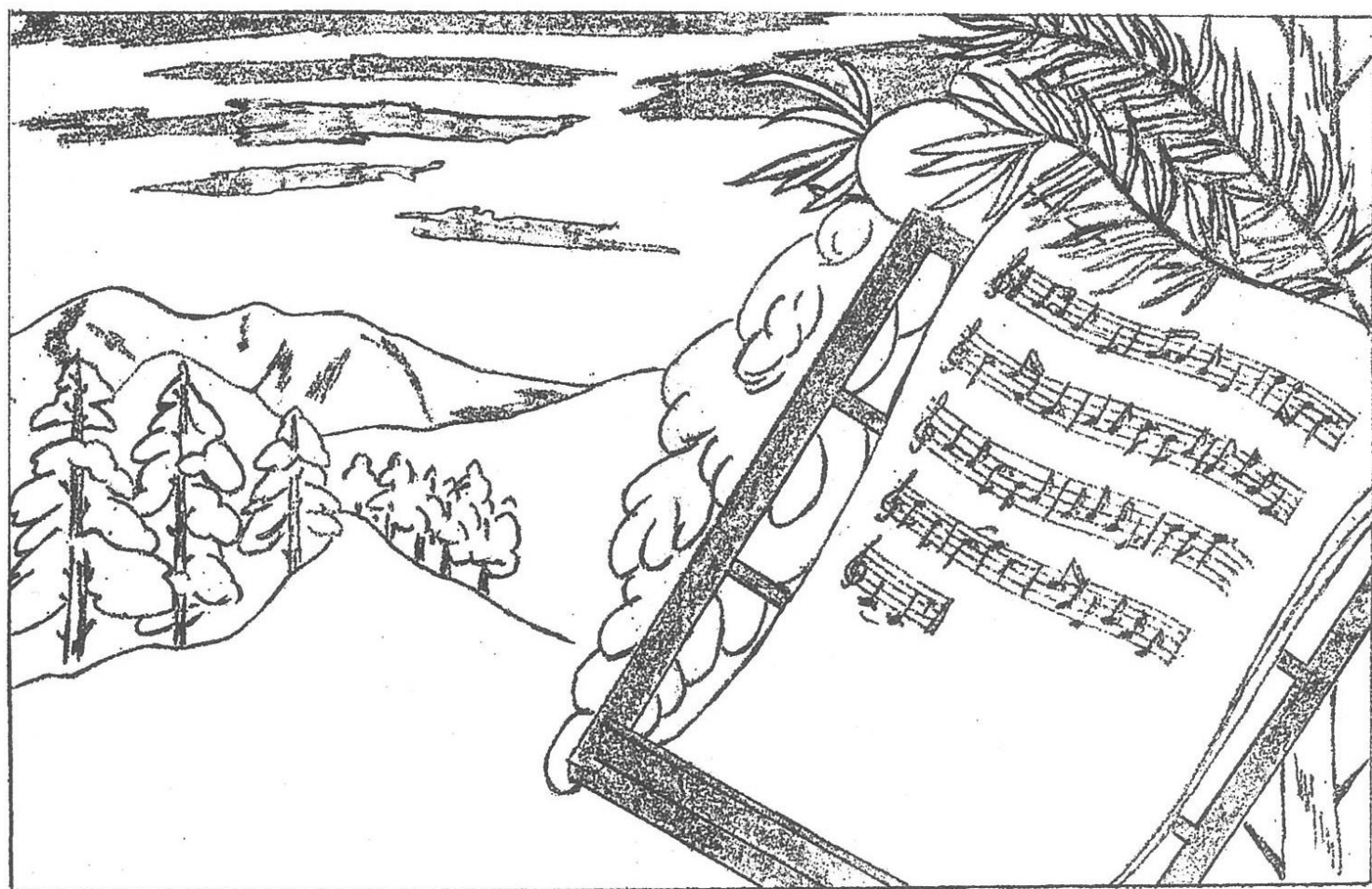


すみよし



2019 クリスマス号 第208号

聖句

すると天使は言った、

「恐れることはない。

すべての人々のための大きな喜びの知らせを告げる。

今日、ダビデの町で、あなたたちのために救い主が生まれたもうた。」

ルカ 2章10節

選：アウグスティヌスT.S.



WHAT'S THE HEART OF CHRISTMAS?

Fr. Constancio Consulta

As I ponder on what Christmas message to write while still at the stage of preparation for this great event, in the hustle and bustle that leads up to our celebration of Christmas, I find myself and perhaps many of you too, asking, "What's it all about?" We sometimes wonder in the rush, the stress and the hurry, whether we have somehow missed the real meaning of it all. This question somehow helps me prepare for Christmas, to enter more fully or deeply into this celebration of the birth of Christ, the Prince of Peace.

Christmas is, first and foremost, about Love, God's Love. How much does God love us? God loves us so much that God gave us the most precious gift imaginable, Jesus, God's own Son. And that's the heart of Christmas.

Christmas is one of the most important days of the Church year, second only to Easter itself. It is the feast of the incarnation, the feast of God becoming flesh, Latin "in carne" means "enfleshment." It is uniquely a Christian teaching, the Divine choosing to become one of us. Because of this belief, God is not only Transcendent, but also wholly Immanent, Emmanuel (God-with-us). While remaining Transcendent, that we have to rise above our present condition to reach Him, He is at the same time Immanent, meaning He is with us as we rise toward Him. Every Eucharist is like Christmas where the bread and wine are transformed into His flesh. His Body and Blood, and, in a sense, He, is born anew on the altar.

The Liturgical season of Christmas begins with the vigil Masses on Christmas Eve and concludes on the Feast of the Baptism of the Lord. During this season, we celebrate the birth of Christ into the world and into our hearts, and reflect on the gift of salvation that is born with him...including the fact that he was born to die for us.

The Nativity scene and Christmas tree are popular symbols of the season and a tradition in many Christian homes. It is also traditional to exchange Christmas gifts with family and friends as a way to honor God the Father's gift of his only Son to the world. Having received the gift of Christ, we naturally want to pass that gift along to our loved ones.

Merry Christmas to one and all!



《 卷 頭 言 》

クリスマスの真髄は何でしょうか？

コンスタンシオ・コンサルタ神父

最大のイベントであるクリスマスのお祝いを迎える準備の段階の喧騒のさなか、どのようなクリスマス・メッセージを書きましようかと思案しました。おそらく多くの皆様と同様に私は“果たして一体これは何の事でしょう？”と問いただしているのに気付きました。慌ただしさ、ストレス、急ぎに任せて私たちはどういう訳か本当の意味を逃がしているかもしれないと思う事もあります。この問いはクリスマスを迎える私の準備を助け『平和の王子』キリストの御降誕を更に十分に又は深くお祝いできるようにしています。

クリスマスは何よりもまず愛です、神の愛です。神はどれだけ私たちを愛されていますか？神は私たちを大いに愛されてこそ想像を絶する最も大切な賜物、イエス様、神の御子を私たちにお与えになりました。そして、それこそがクリスマスの真髄です。

クリスマスは教会の一年の中では重要な日で、イースターに次ぐ二番目になります。顕現『incarnation』の祝日であり、神が肉体化された祝日、ラテン語では『in carne』インカルネは肉体化すると意味します。キリスト教独特の教えで神が私たちのお一人となられる事を選ばれたのです。この信仰によって神は超越的だけではなく、完全に内在的『Emmanuel』(神は私達と共に)でもあります。超越的なままの神に届く為には私達は現在の状況から向上しなくてはなりません、神は同時に内在的ですので即ち私達が神に向かっている際にも共に居られます。聖餐式は毎度クリスマスの様でパンと葡萄酒は神のお身体に聖変化します。ご聖体と御血、そして、ある意味では祭壇で神は新たに生まれます。

クリスマスの典礼の季節は夜半のクリスマスのミサで始まり、主の洗礼の祝日で締めくくられます。この世と私たちの心の中に誕生されたキリストを私たちは祝うと共にその御降誕がもたらした救いの恩恵についてこの機会に深く考えます…私たちの為に亡くなる為に誕生されたという事実も含めて。

御降誕場面とクリスマス・ツリーは多くのキリスト教徒の家庭では季節の人気のシンボルと伝統です。父である神が御ひとり子を世に贈られた事に敬意を表して家族と友人達と共にクリスマスの贈り物を交わすのも習慣です。贈り物としてキリストを受け取った私たちは自然にその贈り物を愛する人達に手渡したいです。

一人ひとりと全ての方にメリー・クリスマス！



(編集部訳)



目 次



☆	聖句	T.S.	...	1
☆	巻頭言	コンスルタ神父	...	2-3
☆	目次		...	4
☆	クリスマスは喜びの日 (昭和 40 年「すみよし」より)	ベロー神父	...	5
☆	待降節黙想会	シスター橋本 とも子	...	6-7
☆	Viva el Papa!	Y.K.	...	8-9
☆	洗礼式と初聖体		...	10-12
☆	合同堅信式		...	13-14
☆	ふっこうのかけ橋プロジェクト		...	15
☆	青年学生会サマーキャンプ	A.S.	...	16
☆	すみよしトピックス		...	17-22
	アベイヤ司教司牧訪問・聖母の被昇天			
	バーベキューパーティー・敬老の祝福			
	セニョール・デ・ロス・ミラグロス・追悼祈念祭			
	フィエスタ（バザー）			
	七五三の祝福			
	フランシスコ教皇映像パブリックビューイング			
	待降節第一主日-バルテレミ神父様ありがとうございました-			
☆	図書紹介		...	23
☆	楽しんでいます！炊き出し	社会活動チーム	...	24-25
☆	信徒動静・教会日誌		...	(26-27)
☆	後記		...	28

題字 J.Y 表紙絵 ロジェ・ベロー神父（昭和 40 年「すみよし」より）

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。



左記 QR コードからのアクセスもご利用下さい。



住吉教会第10代主任司祭ベロー神父が今年帰天されました。神父様は旧聖堂・星の園幼稚園開設など住吉教会のために大きな働きをお捧げくださいました。ここに私どもの感謝と敬意をこめて54年前の「すみよし」からベロー神父のクリスマスメッセージ（抜粋）を掲載します。

（在任期間1951年～1968年 助任を経て主任）

《 クリスマスは喜びの日 》

ベロー神父

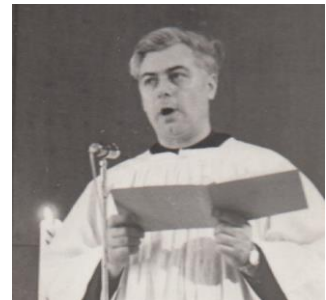
クリスマスの喜びとはどんなものでしょうか。それはいつまでも残るものであって、誰にでも与えられるものです。

荒野での40日間の長い苦しみと祈りがすんだ時、キリストは重大な言葉を言われました。「人はみなパンのみにて生きるものではない。神の口から出る凡ての言葉による。」と。

またヨハネ福音書の第1章1節には次のようにあります。「初めにみ言葉があった。み言葉は神の許にあった。み言葉は神であった。み言葉は肉体となってわれらの中に宿り給うた。」と。この二つの福音書の中に出てくる「言葉」を並べて一緒に考えてみるとどんなことになりますか。つまり人間にとって一番重大なことは神の言葉を頂く事です。換言すれば、肉体となった神のみ言葉 即ち、キリスト御自身を頂くことであります。

さてここでキリストを頂くということは何を意味するのでしょうか。言わなくてもお分かりだと思いますが、つまりそれは「クリスマス」です。キリストは肉体となった神のみ言葉、人となった神、暗闇のなかで輝いた光、人間たちを喜ばせるために送られた神の大きな贈り物だと言ってよいと思います。このようにキリストは神から人に与えられた喜びそのものです。

神の望みは人に喜びを与えることである。
人の歩む道に光、信頼、愛を与えることである。
そのため神はその御子を人間に賜った。
彼は神に代わって人間に語りかけるであろう。
そして神とはなんであるかを教えるだろう。
神はいかに人を愛し、これを自分の国に導くために待ちあぐんでいるかを教えるであろう。



クリスマスの日にはキリストの望み通り喜びに入りましょう。キリストを頂くことで、喜びが我々のものとなるでしょう。ガラテアの信者に送った聖パウロの手紙の中にそのことがよくわかることがあります（2章20節）「もはや、私が生きるのではなく、私の中にキリストが生き給うのである。」

クリスマスの日にはお互いにその喜びをお願いしましょう。そして御子キリストを賜った神様に心から感謝しましょう。では皆さん、喜びの子となってまた、光の子となってクリスマスを迎えることにいたしましょう。

※右のQRコードから原文にアクセスできます



《 2019・待降節黙想会 》

12月1日(日)

汚れなきマリアのクラレチアン修道女会

シスター 橋本 とも子

待降節第1週の希望のろうそくの灯がとまりました。
「イエスさま、私は、あなたが私を大切にしてくださったように、私もあなたの事を大切にしたいのです。」という
思いで今日ここにやって来ました。



＜暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ＞

(マタイ 4 章 16 節)

今年も救い主の降誕を迎える準備の季節に入りました。世界では様々な状況の中から、キリストの光に希望を置き、その光に清められ新たに歩み出そうとする人がいます。最近日本の教会には沢山のアジアの方々がいらっしゃるようになりました。日本で働くために又勉学のために来ておられる方々です、でも大半は若い人たちです。そして彼らは厳しい労働条件の中で、学費を得るために働いておられます。生活習慣や言語の違いがある中で、住み慣れた国、そして親しい家族との別離は、孤独と不安がきつとあることでしょう。そんな彼等に見られるのは十字架の前にひざまずき、赦しの秘跡にあずかり、聖体をいただくとする姿です。最近よくききます、「カテドラル大聖堂でおこなわれるベトナム語のミサが青年たちであふれています。」と。それを聞かされますと、キリストの光に希望をおいている青年たちの心が伝わってきます。

しかしまた

＜光は暗闇の中に輝いている。暗闇は光を理解しなかった＞ (ヨハネ 1 章 5 節)

と言うみ言葉もあります、このみ言葉どおり 2000 年前に生きた当時の人々と同じように光であるキリストを受け入れられない、現代人の現実も目の当たりにします。

科学万能主義・経済万能主義(消費主義)に心を奪われ、人間が自ら人間社会の価値基準を作りその奴隷のようになって生きている現実です。今、社会のクリスマスを見てください。美しく飾り(イルミネーション) ケーキを食べ、プレゼントを交換しあうことであふれています。このような生活の中でキリストの光に気付けるでしょうか。私たちは自らの生活を問わなければならないのではないのでしょうか。

心に残る一冊の本がありました。

＜人々の心は人工灯の光に心が奪われているようです。傲慢と自己満足の人工灯のもとでは、主の輝きは永久に見ることはあり得ず、主の光に照らされてのみ主の光を見る。人間による神探究心は単なる情報の探究ではなく、日々私たちに要求してくる神に対する応答のみが信仰の道である。＞ (「人間を探し求める神」より) 現代社会に生きる私たちに考えさせられる本との出会いでした。

今、私は幼稚園で働いています。私が出会っている多くの人々は光を受ける必要を感じていない人々のように見えます。本当の光を知らないからでしょうか？彼らは今見えている価値あるものを得るために、そして得られているから、満足しているのでしょうか？クリスマスの迎え方も消費社会が差し出す物、それを交換し合って喜んでいます。彼らはまず社会の中で普通に生活ができていて、自分自身が持っている価値観の中でだけで生活している人達で、それはとても狭いものです。日本の社会にだけ通用し、そして、今の時代の中だけの、価値観を満たしていればいいと思って生活している人のようです。そのような人々と全く同じように日本人として無難な常識の中を熱心に生きているキリスト者は、はたしてキリストと出会い、キリストの命に繋がらせていただいている者としての本当のあり方を生きているのでしょうか。数年前から私は自分によく問いかけていました、これでいいのかと？ある時私の問いの答えになるような聖書の話聴く機会を持ちました。

旧約聖書の中に書かれている箇所「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

(創世記 2 章 16b～17 節)

神が言う「死」と、人間がイメージする「死」にズレがあるのです。人間は「死」について一般的に生命学的な死と捉えます。しかし、聖書が示す「死」は、生命学的死も含んでいるけれども、むしろ人が神と他者、万物を勝手に定義づけ、関係断絶に向かう姿を強調しているのです。聖書全体は、創世記を起点に、人間が言う「死」と、神が示す[死]の意味の違いを明らかにし、神の秩序から離れて死に向かう人間の姿をあらわにし、「いのち」への道を、提示しているのです。このことが、聖書全体に貫かれる「神のいのち」「永遠のいのち」「新しいいのち」を理解するためのポイントになるのです。「善悪の木」から実を取って食べた人間は、未熟にも関わらず、ますます、すべてを把握し、悟ったという幻想の中に陥ってゆきます。人間は「善悪の知識」を得、賢くなったのでしょうか？人間は、その後、賢くなったという思い込みと傲慢さにより、かえって人間の未熟さを露呈しています。人間は、神の憐み深さに比べ、狭く幼稚な秤をふりかざして、物事、そして他者、自分までも裁くようになっていきます。

(入門コース) このコースとの出会いは、日本の教会には現代人に聖書の神を力強く伝える力がないと思っていた私に希望を与えました。このコースには大きな力があることを知り、一人でも多くの人に聞いていただきたいと、私は今幼稚園の保護者に参加を呼びかけようと思っています。何故なら人間自らが生み出す価値付け、日本の社会の価値付けに縛られ子どもたちをも縛っているのです。また教会に通う人々も例外ではないようです。そして、神に耳を傾けることもせず、自分の勝手な判断に生きてしまうキリスト者も、もっと大きな神に出会わなければならないと思っています。

＜あなたが私を選んだのではなく、私があなたを選んだ。＞ (ヨハネ 15 章 16 節)

十字架の前にいること、聖体の前に座ること、ひたすらイエスのまなざしのみ受けていること、それはなんと甘美なことでしょう。イエスが私たちの実存に再び触れてくださり、ご自分の新たないのちの交わりへと駆り立ててくださるままになること、それは何とすばらしいことでしょう。それによって何が起こるのでしょうか？・・・「私たちが見、また聞いたことを、あなた方にも伝える」(I ヨハネ 1 章 3 節)人に変えられるのです。

《 Viva el Papa! 》

Y.K.

「やったー！当たった！」長崎での教皇様のごミサの抽選に当たった時はまるで夢のようでした。このごミサに参加できるのだからいい準備をしていかなくてはと思い、フランシスコ教皇様が最近どのようなことをおっしゃっているか、日本に来られるにあたって何を私たちに伝えたいのかを知るためにネットで検索してみました。読めば読むほどパパ様は世界各国で起きている紛争、テロ、移民・難民問題、環境問題など数々の社会問題に言及されると同時に小さなこと、つまりごく身近な人々への心遣い、手を差し伸べること、壁を作らないこと、決して悪口を言わないことなど、普通だがなかなか完全に実行するのが難しいことについてもダイレクトに話されていることに気づきました。驚くのはその内容が幅広く深いこと、そしてわかりやすいということ。もうすぐ 83 歳になられるという今もこんなに精力的に活動されているということも素晴らしいと思いました。

11 月 24 日、当日は友達数人と 8:15 から荷物検査のために並び始めました。こんなに早い時間からもう長い列ができていたくさんの警備員、警察、ボランティアの方々が忙しそうに行き来する中、私たちは同じようにわくわくしている人たちと自然におしゃべりに花を咲かせていました。後 15 分で入れるというときに突然稲光、雷そして雨がぽつりぽつりと次第に粒が大きくなるどころ、皆さん用意周到で一斉にカップを着て待ち続けました。検査がスタート、スムーズに会場に入りダッシュで席取り。私たちのブロックは比較的祭壇から近いところだったのでパパ様が通られるはずの中央通路に沿った席を陣取りました。雨と雷は容赦なく続いたけど一言も文句は聞こえてこないし、にこにこ、わくわくした顔の人が常に行き来しているのも印象的でした。「ああ、皆さんいろんな不都合を教皇様のために捧げているんだな。」と思えたシーンでした。

長崎野球場 Big N は大きすぎず正面にある巨大スクリーンはどの席からもよく見えました。待っている間前教皇、聖ヨハネ・パウロ二世が 38 年前長崎を訪問されたときのダイジェスト動画が放映され、その時行われた数々のイベント、教皇様の忘れがたい笑顔、わざわざ日本語でされたスピーチなど、どれも感動的な場面ばかり観ることができました。まわりにいた年配の方々は「あの時こうだったね、ああだったね。」と思い出すように見ておられました。しばらくしてフランシスコ教皇様が爆心地を訪問され献花される様子が中継で映され、その姿を見た途端に場内が沸き、教皇様は記念碑を抱きしめられるかのように深い祈りを捧げておられました。私たちもその祈りに一致してその時パパ様が願っていることが成就されますようにと祈ることができたと思います。

ごミサが始まる 30 分ほど前、ずっと降り続いていた雨がやみ、急に雲間から太陽が輝き始めました。そして先ほどの雨は何だったのかと思うぐらいあつという間に真っ青な晴天に！本当に奇跡的でした。そして差し込んできた日の光と共にパパ様が入場され Big N は大歓声に包まれました。どこからでもスペイン語の Viva el Papa! Viva! (パパ様万歳) の叫び声。私もその日のエネルギーを全部出し切るぐらいの声で叫びました。教皇様は右に左に手を振りながら満面の笑みをたたえて皆の声に応えておられました。時々何人かの赤ちゃんや小さい子供がパパ様のもとに連れられパパ様は抱き上げて接吻され、手を置いて祝福を授けたりされていました。



Viva el Papa!
Viva el Papa!
Viva el Papa!



ごミサが始まります。ラテン語と日本語がまじりあい、共同祈願はスペイン語、韓国語、タガログ、ベトナム語など他国の巡礼団の代表が参加されました。いよいよ教皇様のお説教です。その日の福音書は十字架につけられたイエス様を見て回心した盗人の箇所でした。パパ様はいかにこの盗人がまさにイエス様が十字架につけられ、栄光と勝利にはほど遠いその時に、声をあげ信仰宣言をしたことに注目されました。「この国（日本）は、人間が手にしうる壊滅的な力を経験した数少ない国の一つです。ですから私たちは、悔い改めた盗人と同じように、苦しむ罪なき方、主イエスを弁護し仕えるために、声を上げ、信仰を表明する瞬間を生きたいのです。主の苦しみに寄り添い、その孤独と放棄を支えたいと思います。そして今一度、救いそのものである御父が私たち皆に届けようとするあの言葉を聞きましょう。『あなたは今日私と一緒に楽園にいる』（抜粋）

それからパパ様は長崎で日本における最初の殉教者聖パウロ三木と同志たちにふれられ、彼らの勇気ある証を真似るように促されました。そしてその勇気はまさに十字架のイエスから与えられるもの、無意味な悲観主義や感覚を鈍らせる物的豊かさにことごとく勝利する力があると言われました。そして私たちの生活と活動が神を賛美するものになるように。私たちの使命は家庭、職場、社会どこであれおかれた場所で神の国のパン種になるように駆り立てるのだとおっしゃいました。「あの日カルワリオでは多くの人が口を閉ざしていました。他の大勢は嘲笑し、盗人の声だけがそれに逆らい、苦しむ罪なき人を擁護できたのです。それは勇気ある信仰宣言です。私たち一人一人が決断することです。沈黙か、嘲笑か、あるいは告げ知らせるか」（抜粋）

教皇様は少しお疲れのようでしたが、はっきりと最後まで伝えたかったことを言われました。この社会を少しずつ変えていくのはほかでもない私たち個人、一人ひとりの祈り、言葉、行いであることがはっきりと伝わったと思いました。世界中の人々の苦しみを担っておられる教皇様が発せられた言葉の重みは一つひとつ心に刻みこまれるようでした。

ごミサを終えられた教皇様の表情は晴れ晴れとしておられ、皆の歓呼と拍手の嵐の中、暖かいまなざしを皆に向けつつ去ってゆかれました。

今回の訪問で教皇様は多くの人々の心に触れられたと思います。そして私たちもパパ様の心を感じることができました。皆さんも映像を観ながら、新聞を読みながら同じように感じられたのではないのでしょうか。パパ様の声に動かされて今が漁をするとき、沢山の人をキリストに連れて行くときだと感じました。あらためてパパ様はまさに全ての信者の、また人類すべてのお父さんだと実感しました。パパ様を日本に連れてきてくださった神に感謝！そしてパパ様本当にありがとうございました！

《 洗 礼 式 》

2019 年 4 月 20 日

復活の聖なる徹夜祭、お二人の洗礼とお一人の改宗、そして堅信の式がおこなわれました。一同、感謝のうちに新しいお仲間をお迎えする喜びと共に、それぞれが洗礼の恵みへの思いを新たにしたことでしょう。



復活のろうそくの点火



キリストの光の入堂



洗礼名をいただきます



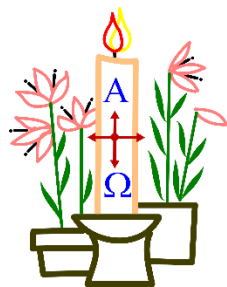
私が、子どもの頃に、エミリー・ブロンテの「嵐が丘」を読んだとき、荒涼とした自然環境の中で、ひたむきに力強く生きている人々とその人々とは肌の色が違う孤児であった主人公ヒースクリフ自身が受けた不条理に対する復讐にとても魅力を感じました。

大人になって、再度「嵐が丘」を読む機会がありましたが、子どものころに魅力を感じたヒースクリフの復讐は、復讐の対象者のみならず彼自身をも破壊してしまうことに気づきました。復讐は破壊であることをブロンテは、この作品を通し私に教えてくれました。

こうして、「嵐が丘」は、私の最も好きな文学書の一つになったのですが、日々の生活の中で不条理なことに遭遇するごとに、子どものころに魅力を感じたヒースクリフがよみがえり、相手に対する怒りを抑えることができず、「復讐することができるのなら」と考えていたような気がします。そんな中、とうとう3つもの大きな不条理が同時に私に降りかかってきました。始めは、ヒースクリフのように「これらの不条理を起こした人々との闘い」であるかのように、私の心からふつふつ湧き上がる怒りに任せるがまま行動を取りました。しかし、その結果、周りにいる人々を巻き込みながら私自身が崩壊寸前な精神状態になってしまいました。そのような状態の中で心のよりどころを探していたとき、傘木神父様の勉強会に巡り合いました。これらのすべての過程において、神は私を住吉教会での洗礼にお導きくださったのだと心より感謝しています。

エマニュエル神父様とペンケレシ神父様からも「許す」ことしか救われる道はないことをご教示いただきました。代母のH.Y.様には、いつもカトリック信者の模範を見せていただいております。また、住吉教会の皆様におかれましては、このような未熟な者を温かくお迎えいただいたことについて、心からお礼申し上げます。

パウラ M.B.



《 初聖体 》

2019 年 4 月 21 日

復活の主日のミサの中で、一人のお子さんが初聖体を授かりました。
美しい民族衣装に身を包み、神父様から初めての御聖体をいただき、ご両親はさぞ誇らしくお喜びに満ちていらしたことでしょう。信徒の皆さんも我が子を見守るような温かいまなざしで祝福されていました。

わたしは、はつせいたいするとき、つまらなかったけどがんばった。さいしょはごせいたいってどんな味なのかじっさいにもらってみたかったし、はつせいたいの前の日に、**Wちゃん**にきいた。「ごせいたいってどんな味？」ときいたら、「味はしないけどパンのあじがするよ」といってくれた。そしてはつせいたいの日、わたしはごせいたいをもらったらすぐ口の中にいれてみると**Wちゃん**が言ったとおりの味だった。わたしはいまではじしゃもやるようになってうれしいとおもった。

アグネス S.M.



《神戸地区東ブロック合同堅信式》

6月23日(キリストの聖体の主日)、神戸中央教会にアベイヤ補佐司教をお迎えして、コンスルタ神父、エマニュエル神父、そしてアルフレド神父とともにバイリンガルのミサを司式していただきました。住吉教会からは4人の中学生が堅信の秘蹟に与りました。

神戸中央教会での勉強会を重ねて、無事6月に堅信の秘蹟を頂きました。支えて下さった住吉教会の皆さん、有難うございました。勉強会では毎回、テーマ毎に沢山のことを教えて頂き、信仰について考える時間を取ることが出来ました。日常の学校生活では忙しく神様について無意識で過ごすことが多い中で、今回改めて勉強出来て良かったです。これからじっくりと私のペースで信仰を堅めていきたいと思います。これからもよろしくお願い致します。
アグネス・テレジア A.S.



アベイヤ補佐司教

It was a great thing that I participated in the confirmation. During the time getting ready for confirmation, I went to Sannomiya and had a lesson about Jesus' love and his mercy. The day I had confirmation was great, because everyone who attended the mass congratulated me. I felt really thankful who suggested me to have confirmation, and had such a big honor.

堅信式に参加できたことは素晴らしいことでした。堅信の準備期間、私は三宮(中央教会)でイエス様の愛と慈悲について学びました。堅信式の日にはミサに来られた皆さんが私をお祝いしてくださり、素晴らしい日でした。堅信を勧めて下さった皆様、そしてこのようなお恵みに与ることができたことに心から感謝します。
フランチェスカ G.M



エマニュエル神父



司教様、神父様方から祝福をいただく受堅者





アルフレド神父



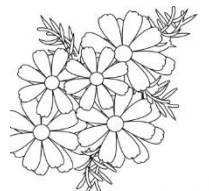
CONSULTA神父

僕は幼児洗礼を受け、多くの人々に支えられて初聖体をして、このたび堅信を受けられたことに感謝します。またこれからアッシジの聖フランシスコのような平和を愛し、多くの人々を受け入れられるような心の広さ、心の優しさを目指して多くのことを学び、神様の道を歩んでいきたいと思います。

アッシジのフランシスコ R.O.

私は中学校に入りあまりミサに参加することができませんでしたが、この堅信式や勉強会でたくさんのカトリックの知識を付けることができました。これから私の洗礼名「クララ」のような気高い精神を持つ人間になれるよう学校生活や公共の場でたくさんのことを学び、たくさんの人々と関わり、神様の道を歩んでいきたいと思います。堅信式を支えてくださった方々に感謝します。

クララ R.O.



住吉教会からの4人の受堅者



みなさん、おめでとうございます！



《ふっこうのかけ橋プロジェクト》

8月1日(木)～5日(月)

8年目となるふっこうのかけ橋プロジェクトに福島から12人のお友達が来てくださいました。今年も皆様のお祈り、募金、食事・宿泊のお世話等、多くの温かいご支援に支えられて実施できましたことを心から感謝いたします！

<1日目>

聖ビンセンシオの聖堂で愛徳姉妹会のシスターによる開会式。不思議なおメダイの話を聞き、おメダイのプレゼントをいただきました。



<2日目>

神戸のお友達や六甲学院・海星のリーダーと一緒に青少年博物

ケン神父様のお祈りでお昼をいただいた後は、ポートライナー基地で洗車や分解掃除を見学。夕食はコーナン神父様のお祈りで粉ものパーティースタート☆

プラネタリウムを見たり
科学の不思議を体験しました♪

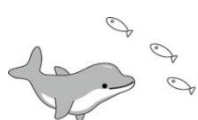
<3日目>

アジュール舞子で海水浴。
垂水教会ではふれあい祭りや
流しそうめん、BBQで夏を満喫♪



<4日目>

垂水教会でミサ後、須磨水族館、三宮ショッピング&希望スイーツ店、
鉄道マニア少年は新幹線や近鉄などの鉄道巡り、と分かれての行動。
福島に無い餃子チェーン店での夕食に大感激してくれました！



<5日目>

最終日、垂水教会で林神父様による祝福と閉会式の後は動物王国に。バイキングを食べ
楽しい時間を過ごしました。恵み豊かな時間を皆で過ごせたことに感謝！



バードショーを見て動物と触れ合いました♪



神戸空港には六甲生も見送りに
来てくれて別れを惜しまました☆

《青年学生会サマーキャンプ》

A.S.

まだまだ暑さの続く 8 月 17 日から 3 日間、私たち青年学生会は和歌山県の屋形町教会をお訪ねしました。現在屋形町教会にいらっしゃるパウロ神父様と共に浜辺で祈りを捧げたり、朝のミサ後に山へハイキングにいったりと、太平洋と和歌山の山々を舞台に、とても充実した日々を過ごすことができました。また、屋形町教会の BBQ パーティーにも参加させていただき、信徒の皆さんの方々にも大変お世話になりました。

若者が少ないながらも、このように毎年サマーキャンプを開催することができ、このサマーキャンプを通して新たなつながりが生まれ、素敵な思い出となることはとても幸せなことです。今後も様々な活動を通してお互いの仲をさらに深め、これからの教会のために頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



すみよしトピックス

《アベイヤ補佐司教司牧訪問》

6月2日(日)

主の昇天の主日に、大阪教区アベイヤ補佐司教が住吉教会を司牧訪問し、ミサを挙げられました。お説教の中で「主の昇天は遣わされた者・宣教の記念です。主に出会い、主を心に感じながら主の祝福、愛と慈しみを伝えて行く者になるように祈りましょう」とお話してくださいました。



<アベイヤ補佐司教紋章説明>

「キリストの愛に駆り立てられて」。パウロのコリントの教会への第二の手紙の5章14節です。わたしたちのキリスト者としての生き方の源泉であり、福音宣教の原動力です。

「神の国」の他に、目的とするものはありません。開かれている本は、神のみことばです。わたしたちの歩みを照らし導くことばです。

はとは、聖霊を表し、平和への願いをも表しています。炎は、聖霊に満たされ、人々への愛に満ちているマリアの心を表しています。

(カトリック大阪司教区 HP より)

ミサ後には、ミニパーティーが行われ、アベイヤ司教は信徒と和やかに歓談されました。

《聖母の被昇天》

8月15日(木)

台風10号が接近し、大雨・暴風・波浪・高潮の警報が発令される中、19時より聖母被昇天のミサがエマニュエル神父・ペンケレシ神父の司式で捧げられました。悪天候の夜ということで、教会に来るのを断念された方々もマリア様に思いをはせ、祈りのうちに15日の夜を過ごされたことと思います。



《バーベキューパーティー》

8月25日(日)

住吉教会恒例のバーベキューパーティーが、8月最後の日曜日5時から行われました。CONSULTA神父・エマニュエル神父をお招きし、大人60人・中高生14人・小学生幼児14名総勢90名で、ゆく夏を惜しみながら親睦を深めました。ふっこのかけ橋のボランティアスタッフの六甲学院の学生さんも参加されて賑やかなうれしい夕べとなりました。



《敬老の祝福》

9月15日(日)

ミサの中で、バルテレミ神父・ペンケレシ神父によって敬老の祝福が行われました。

日本の社会や家庭を支えてきた人生の先輩である方々に感謝を込めて、これからも神さまの祝福が豊かにありますようにと祈りました。

ミサの後は、お茶とお菓子で茶話会が開かれ、楽しい交流の時間となりました。



《セニョール・デ・ロス・ミラグロス》

10月20日（日）



ペルーの祝日セニョール・デ・ロス・ミラグロス、住吉教会で一緒にお祝いをするのも28年になります。たくさんのペルーの方が来られ、スペイン語・日本語のバイリンガルのミサのあと、教会と幼稚園の敷地内を、祝別されたおみこしを交代で担いで練り歩きます。

午後からは、ペルー料理や音楽、華やかなダンスで、皆楽しみました。



ペルーの民族舞踊マリネラ

日本人の信徒も一緒に担ぎます



《追悼祈念祭》

11月3日（日）

住吉教会ゆかりの死者のための追悼祈念ミサが、バルテレミ神父・ペンケレシ神父の司式のもと行われました。



《フィエスタ（バザー）》

11月10日（日）

好天に恵まれ、今年も住吉フィエスタが開催されました。
バザー品の寄贈や仕分け・値札等の事前準備、買い出しや当日の調理・販売等、
多くの方のお手伝いに支えられ、温かく和やかな一日を過ごすことができました。
住吉教会と星の園幼稚園、そして地域の方々と楽しい時間を共にする交流の場
がこれからも続いていくよう、主がお導きくださいますように。



Cute な助っ人は百人力 ♡



スマイルでお出迎え♪



雑貨コーナー
どれにしようかな😊



今年も盛り上がったビンゴ！



忙しくても笑顔が絶えない台所♡



ペルー料理もあります♪



皆の思いを一つに♡S委員長



素敵な時間を神様に感謝 ♡

《七五三》

11月17日（日）

主日のミサの中で四人のお子さんたちがバルテレミ神父から七五三の祝福を受けました。バルテレミ神父は、七五三のお祝いに合わせて、聖書マルコ 10:13-16 の箇所を選び朗読し、子供たちに向けて、やさしく話してくださいました。神父様の語りかけに、子供たちもじっと耳をすませ、問いかけに応じていました。いつも小さな子供たちのために気を配られるバルテレミ神父の、想いのこもった説教でした。



子供を祝福する

マルコによる福音書 10：13－16

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。



「子どもの祈り」を一生懸命読み上げている小さい人の横で、侍者のお嬢さんが小声でフォローしている姿がほほえましかったです。教会共同体の中で姉妹のように助け合って育っていく姿に心が温まりました。

ご家族様はもとより、私たち皆の希望であり未来である子供たちに、より一層の神様の祝福とお恵みがありますように、と信徒一同お祈りいたしました。

《フランシスコ教皇映像・パブリックビューイング》

11月24日(日)・25日(月)

フランシスコ教皇の長崎訪問・東京でのミサのライブ中継のパブリックビューイングを住吉教会でも行いました。雨の中、長崎爆心地公園で祈る教皇、皆の祈りが届いたのか午後から晴れた長崎県営野球場での「王であるキリストの祭

日」ミサ、5万人の割れるような歓声が沸き上がった東京ドームでのミサの様子を、住吉教会で皆で見ることができました。

HP 委員会委員長の
ご厚意と技術!?に感謝いたします。



また、当日見ることができなかった方のために、DVD も作成し貸し出しを行っておりますので、どうぞご覧ください。

《待降節第一主日》

12月1日(日)

～バルテレミ神父様ありがとうございました～

待降節第一主日のミサはバルテレミ神父の司式で行われました。年間の主日が終わって、待降節第一主日は始まります。バルテレミ神父は「イエス様が来られるのは過去や未来ではなく今日です。心を開いてイエスさまを迎えてください。

今日は『最後の日』、そして今日は『始まりの日』。神

さまが共にいてくださると思って歩みましょう」とお説教を締めくくられました。

12月3日からフランスで新しい歩みを始められるバルテレミ神父、住吉教会信徒一同、感謝と祈りのうちに、お見送りいたします。

バルテレミ神父様、8か月の間、ありがとうございました。



《 図 書 紹 介 》



フランシスコ教皇来日に伴いキリスト教系ではない一般の出版社からも
教皇の言葉をテーマにした書籍が刊行されました。
2F図書コーナーで貸出しを行っておりますのでご利用下さい。



ローマ法王の言葉

協力 ローマ法王庁 カトリック中央協議会 講談社編

ことは 38 年ぶりにパパ様が日本をご訪問になり短いご滞在でしたが、私達に目に見えない素晴らしい贈り物をくださり感謝の年でした。この本はフランシスコ教皇が 2013 年就任以来サンピエトロ広場、パウロ 6 世ホール、米国フィラデルフィア美術館野外庭園、パリアーノ刑務所礼拝堂、ボロメオ神学校等々での講話からの引用を、日本のカトリック中央協議会の協力を得て収録したものです。

第1章：家族 第2章：愛 第3章：ゆるし

第4章：喜び 第5章：子どもと若者

すべてが誰にでもわかりやすい言葉で書かれていて、フランシスコ教皇が人に対する優しさにあふれ、とてもユーモアがおりだということもわかります。

第4章の喜びの中で 2017 年 12 月 17 日の講話からのメッセージ

「喜ぶこと、祈ること、感謝すること、これらは真のかたちで降誕祭(クリスマス)を過ごすよう備えるための三つの姿勢です。喜び、祈り、感謝です。」



教皇フランシスコの「いのちの言葉」

森 一弘 著 扶桑社

第 266 代ローマ教皇 フランシスコってどんな人？！

教皇のこれまで歩んできた道、大切にしてきたことなどを、ご本人自ら語った言葉から読み解いていきます。聖書になじみがなくても、カトリック信者でなくても、わかりやすい。前向きに、元気に、そしてやさしい気持ちになれます！（本書の帯から）



素晴らしいメッセージを多くの皆様に伝えたいという願いから本書は誕生したそうです。解説役は 森 一弘司教です。

(編集部)

《楽しんでいきます！炊き出し》

社会活動チーム

阪神淡路大震災後から始まった“炊き出し”。

被災された先輩の方々が身を粉にして、聖堂が壊れた中山手教会（現 中央教会）の炊き出しに大勢参加され、教会の工事のため、小野浜に移ってから途切れることなく続き、今に至っています。

住吉教会は毎月第一土曜日を担当、

メニューは具たくさん豚汁とご飯に漬物。最近はやで卵も。野菜洗い・皮むき、カット、ちくわ・薄揚げ・こんにゃく・豚肉切り、ゆで卵殻むき等々・・・

そんな炊き出しの様子をお伝えします。

【8月3日（土）】

暑い暑い一日でした。私たちボランティアも、おっちゃんたちも競って紫蘇ジュースやポカリを飲みました。教会で用意してもらったOS-1を飲んだら少し元気が出ました。

今日のメニューは、社会活動センターから頂いた南瓜・人参・じゃが芋・玉葱・キャベツを加えた具たくさん豚汁と熱中症対策の梅干し2ケ・ゆで卵1ケをのせたご飯。

梅干しがとても好評でした。

暑くて汗だくの上に熱い豚汁！！！元気が出たことでしょう。



【9月7日（土）】

今日も強い陽射しで暑かったのですが、時折吹く涼しい風に蚊も元気になったようで、蚊取り線香を焚いての豚汁作り。

住吉教会からのボランティアは、6人と少なくて不安でしたが、いつものおっちゃんのスーパーピーラー皮むきや2人の男性ボランティアの活躍で

11時半には豚汁も炊き上がり、

火を落として少しだけ冷ましての配食。

社会活動センターからの紫蘇ジュースや教会からのOS-1で凌ぎました。



【10月5日（土）】

小さな秋を感じる小野浜、テントの外でもさほど暑さが気にならず吹き抜ける心地よい風に作業もはかどり、いつもの住吉ランチが提供できました。

教会からは9人、センター2人、自主ボランティア1人、当事者3人で豚汁作り。

片付けになると、もっと大勢の当事者の働きで、12時40分には解散できました。

おっちゃん達の「旨かった！ごちそうさん！ありがとう！」の声が励みになります。

初参加の若い2人も「楽しかったです！！」と。



【11月2日（土）】

暑くもなく寒くもない最高の炊き出し日より。

いつも頼りにしている当事者のKさんが入院されてお休み。

回復を祈りながらKさんにお任せしていた準備を皆でなんとか分担、配食の時間に間に合いました。

センターから白菜・キャベツ・南瓜・大根・かぶらをいただき、いつも以上の具たくさん豚汁に大根葉の浅漬け（これもセンター）、ゆで卵とみかんをつけての配食ができました。

その後、Kさんの容体が急変。11月12日に永眠されました。

14日に仲間や、炊き出し等で共に働いたボランティアや、神父様方で祈りの集いの後、お別れをしました。Kさんとの炊き出しを忘れられません。

安らかに、永遠の安息を祈ります。

《後 記》

フランシスコ教皇様の来日の間、行く先々でのご様子や声明が大手のマスメディアにも取り上げられ、とてもうれしく拝見しておりました。そんな中、詩人・批評家でカトリック信者の若松英輔さんの書かれた記事『信徒 0.3%の国に教皇が来る意味』が目にとまりました。その中に「キリスト者に非キリスト者のところへ『出向いていく』ことを促しにくるのだと思います」というようなことが書かれていました。

職場・家庭・ご近所・友人ほぼ非キリスト者の人々の中で私は暮らしています。そして宗教の話をしてもらえなくて嫌がられるのではと中に閉じこもっている自分があります。教皇様のように広く宣教に出かけることはできなくても、自分の場所で「出向いていく」ことはできるのではと、思い巡らしました。

仕事に行く前「謙虚で柔和でいよう」と心がけ、家庭の中では「いつも喜んでいよう」と思い、孤立している人に声をかけ・・・と、イエス様に倣う姿で人々の中に入っていく・・・まずそこから始め、『出向いていける人』になろうと思った教皇様の来日でした。

クリスマスおめでとうございます。

H.H.

私は本年7月から、神戸市への引越しを機に、住吉教会でお世話になっております。その時から、住吉教会の大きな特徴として私が感じていることは、心から祈る方の多い、「祈りの教会」であるという事です。そして、今回、私は「すみよし」の編集作業に参加させて頂き、気づいたことは、皆様が祈りと共に、使徒的活動も精力的に行っておられる事でした。よく祈り、そして、活発に活動をしている住吉教会が、この社会に与えている良い影響を想像すると、私はとても嬉しくなりました。

T.S.

教会案内

※下記の予定は変更になることがあります

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第1・第3土曜日	19:00
	スペイン語	
週日ミサ	火・金曜日	9:30

講座

信仰の分かち合い	第5日曜日	11:00
聖書の集い	金曜日	10:15
Come & See	第4土曜日	15:00

教会学校

第1・第3土曜日 14:00-16:00
対象：小学1年生～6年生

評議会

第3日曜日 11:00

野宿者支援炊出し

第1土曜日 9:30
(住吉教会集合)



「すみよし」第208号

発行日	2019年12月24日
発行責任者	エマニュエル神父 コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp	